

---

■ 学芸大学駅周辺地区整備計画推進 平成 22 年度 第 1 回地区懇談会 議事概要 ■

日 時：平成 22 年 7 月 29 日（木） 午後 7 時 00 分～午後 9 時 00 分

場 所：鷹番住区センター（地下）レクリエーションホール

出席者：メンバー：9 名

目黒区：都市整備課：幡野課長、双木係長、栗原主査

コンサルタント：益永、小林

---

## 1 報告事項、資料等の説明

- ・ 平成 22 年度学芸大学駅周辺地区整備の進め方について
- ・ 「あんしん歩行エリア形成事業」の進捗状況について
- ・ その他学芸大学駅周辺地区整備の具体的な取組みについて

## 2 意見要旨

### ●平成 22 年度学芸大学駅周辺地区整備の進め方について

#### ○今年度のテーマ・進め方について

- ・ 今年度は商店街と駅の整備がメインになると思われる。
- ・ 時間的な制約もあるため、今年度は、商店会の今後のあり方、商店街東西通りの整備にテーマを絞った方がよいのではないか。
- ・ コンコースについては扱いが難しいが、商店街のカラー舗装は、交通安全対策だけでなく景観にも関係するため、別々ではなくまちづくりとして一体的に考えるべき。
- ・ 整備計画の推進として、時間の許す限り、一つ一つの事業計画について具体的な検討を行っていく必要がある。
- ・ 計画がより具体的になってきた今年は、地域を上げての計画という形に切り換え、キャンペーンを行いながら自転車対策等を行ってはどうか。
- ・ どのような会でも参加する人は限られるが、参加している人間で最善を尽くし、それぞれの立場からの意見を述べるのがよいと思う。  
→第 2 回の懇談会のテーマに関しては、しぼった議論を提案したい。  
→駅を中心とした空間については、鉄道事業者の考え方もあるので、関係権利者を中心に話を進めていかざるを得ないと考えている。

#### ○地元街づくりと懇談会の役割等について

- ・ 地元の個別検討組織に、地域住民としてオブザーバー参加できないか。
- ・ 商店会としては、おしチャリのように、最終的に地元を下ろしたら反対意見が出てしまったということにならないように、商店会の中である程度の方向性について意思統一を図ってから、懇談会に出したい。
- ・ 今年は、動きが具体的になるため、懇談会では、報告されたものに対して大きな見過し等があれば、消費者や町内の人間としてアドバイスすることにしてはどうか。  
→あんしん歩行エリア形成事業の交通安全対策としてのカラー舗装（全面カラー化）については、まず商店街に意見を聞きながら進めていきたい。  
→商店会はこれからの商店街をどうしていくか考える会であり、昨年度の状況を踏まえて、まずは、区が各組織の会合に出席し会の活性化を図り、今後時間をかけてじっくり進めていく予定である。

## ●「あんしん歩行エリア形成事業」の進捗状況について

### ○安全対策としての歩行空間確保について

- ・歩行空間を広げるのはよいが、その空間に商品陳列が広がるだけなら全く意味がない。
- ・商品のはみ出しがなくなるだけで、東西の商店街がすっきりする。
- ・去年の街歩きの際にも問題となった商品のはみ出しが未だに改善されていないため、商店街には自主規制をしてもらいたい。

### ○交通安全対策について

- ・旧六中前通りとバス通りの交差点については、見通しも悪いため、信号設置は必須だと思う。  
→信号機の設置は難しいかもしれないが、道路管理者として、交通管理者への要望を継続していきたい。
- ・この懇談会等の成果なのか、最近、横断歩道上を照らす大型規制標識が整備され横断歩道が見やすくなった。
- ・鷹番通りにも、横断歩道を照らす標識（底に穴あり）があるが、ないもの（底に穴なし）もあるため、今後はなるべく横断歩道を照らすものを設置してほしい。
- ・鮫洲大山線と東急電鉄との交差点の高架下に、カーブミラーをつけてほしい。  
→都道の整備予定についてだが、東京都にはあんしん歩行エリア形成事業計画書を示し、バス通りの整備をお願いしている。今後も事業の進捗に応じて、東京都第二建設事務所と協議を進めていく予定である。

## ●その他学芸大学駅周辺地区整備の具体的な取組みについて

### （地元個別検討状況、駅前の歩行空間確保についての課題について）

### ○店舗前の商品はみ出し改善による歩行空間確保について

- ・商品のはみ出しについては、行政のほうで厳重に取り締まってもらい、商店街が協力するという形は取れないか。
- ・地区懇談会に各商店街の会長・理事長を呼び、各商店街に指示を出し、対策等及び実態を追求してはどうか。
- ・地区懇談会は、何かをするなと言う会ではないと思う。商店街が自主的に解決するのが正論だと思う。
- ・商店街は任意団体であり、規制や禁止といった性格をもっていないため難しい。
- ・消費者からの苦情が一番効果的ではある。
- ・カラー舗装によって歩行空間の質を向上させ、併せて商品のはみ出しをやめるよう呼びかけるといったことが必要ではないか。

### ○地元個別検討について

- ・カラー舗装と景観は次元が違うと言っていたが、商品のはみ出しやガードパイプ、たばこのポイ捨て等については議論の対象にしている。カラー舗装をする際には、景観の将来像も一緒に取り上げてほしい。
- ・駅周辺の放置自転車は、駐輪場への誘導により以前に比べて減少したが、周辺で放置されている実態がある。防止のきっかけとしても、カラー舗装化は重要だと思う。
- ・今後の商店街まちづくりの大きなきっかけとしてカラー舗装を行うことを、行政も含めて一体的に行って欲しい。
- ・行動力もあるリーダーが出てくる街、また育つ街になって欲しい。

→区としても、街づくりについて考えるきっかけにして欲しいと思っている。まちとしてどうしたいのか、お客さんに来てもらうために、いい空間づくりや交通安全対策を行う、ということをお話し合ってもらえるよう、個々の商店街に出向いてお願いしていく予定である。

→学大の商店街はポテンシャルが高いので、商店街の街づくりとして取組んでもらいたいと考えている。

→街づくりの戦略と絡めて、あんしん歩行エリアについて考えていきたい。

→地元組織については、これから盛り上げていく。

#### ○その他

→地元街づくりへのオブザーバー参加が可能かどうか、各組織に問い合わせる。

→地元組織のひとつ自転車勉強会は、10月に次の会合を予定している。

→日程は未定だが、商店街の街づくりを考える会も近日中に開催を計画中である。

→次回の地区懇談会は、9月30日（木）午後7時を予定している。

以上